

# 報徳の森に生かされる

松田 パウロ

## 緒言

遠く古より、大河は文明の進化を誘うものであった。

活火山と峻険な山岳を有す海洋国家・日本は、東洋思想の叡智を戴きつつも、天は志高き健全なる「農民」を育て、無限の可能性を与え続けている。成熟した高度情報化社会を迎え、報徳という言葉は、「すべての命の可能性」と解釈し、森林農法と生態系産業の未来を考察する。

## 報徳の揺り籠

霊峰富士の宝永大爆発 (1707 年) は、夥しい火砕砂が足柄地域を呑み込み、農林業を壊滅させ、酒匂川を原始河川に激変させてしまった。爾来 100 年以上も氾濫を繰り返すに至る。堤防決壊は、農村経済に壊滅的打撃を与えつつも、氾濫流域の拡大は、河川の魚族の爆発的増殖の好機でもある。

富士山大噴火と酒匂川氾濫は、ミネラルの爆弾であり、恵みの増水である。その濁流に含まれる荒削りな養分は、直接に人間には吸収し難くとも、魚族、鳥類、植物の生命循環を通して、有り余る富源に変化してゆく。

コメ本位経済体制に生きる江戸時代の「農民」の生命力は驚愕に値するが、激甚災害こそが強靱な体躯を創り、明晰な頭脳をも授けていたとも言える。

泥中より湧きあがるドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* やウナギ *Anguilla japonica*。山野の山菜などは少年期の金次郎先生の生長を、力強く支えたことであろう。

そして白米の限定飢餓状況は、「農民」の食文化の強靱化を招いたと言える。

富士山と丹沢山系からもたらされる鉄 (Fe)、ケイ酸 (SiO<sub>2</sub>) カルシウム (Ca) 等は速やかに、着実に、稲、竹類植物、野菜、芋類に吸収され、風水害、病虫害に負けない剛健な体質を授ける。土壤微生物の活性化も同時に進行する。

植物の遷移はゆるやかなれど、山野に樹木が再生し、河川支流に清流が蘇り始める頃、自然薯 *Dioscorea japonica* と鮎 *Plecoglossus altivelis* に象徴される復興の天然産林物が、河川流域の村々に押し寄せる。

氾濫を生き延びた農民は、優れた発酵保存食および健脳食を確立するに至る。

## 土間の台所

金次郎先生の生家の台所の土間は、思索の実習室とも観察される。

剛健なる体躯は、過酷な肉体労働の結果ではなく、自ら体を労わる智慧の賜物それは金次郎先生が料理上手であろうことの証明にもなる。

農作業と土木工事に明け暮れる農村では、料理材料の調達、調理の段取りと、真剣勝負